平成３０年６月１日

関西電力株式会社
　高浜発電所長　宮田　賢司　殿

高浜原子力規制事務所
　統括原子力運転検査官　山西　忠敏

安全文化・組織風土劣化防止に係る取組の総合評価について（指導）

平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日に行われた、高浜発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取組要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

（取組み要請事項）
（１）常に問いかける姿勢
　作業実施前に実施しているリスクレビュー会議等の各種会議体及び各担当部門での日常の確認レビュー段階での原子力安全・労働安全に対するリスク検討にあたっては、常に疑問を持って様々な視点から潜在するリスクを漏れなく抽出できるよう常に問いかける姿勢の更なる強化を要請する。
　また、日々実施される現場作業についても、目前にあるリスクに対する疑問点や改善の意識を常に持ち、問題点を発見したときには、作業を中断し、その対策を検討されるとともに、実践されることを要請する。特に、協力会社作業員への指導及び助言を図って頂きたい。
（２）作業管理
　現場作業に対するﾘｽｸ感受性が、発電所員には浸透しつつあるが、一方で実際の現場作業を請け負っている協力会社社員にはまだ充分に浸透していないと思われる。協力会社社員へのﾘｽｸ感受性の浸透を通じ、作業員間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを密にとるとともに、作業状況の把握、ﾘｽｸの共有等による作業管理の強化を要請する。

（奨揚がふさわしい取組み）
　ﾘｽｸレビュー会議等を開催し、作業担当課以外の第三者の視点によりﾘｽｸを抽出及び除去する活動は、作業の安全性を高め、発電所内のﾘｽｸ感知能力向上に繋がる活動であり、下半期において、気付き事項･指摘事項及び重傷災害含む労働災害発生件数が低下傾向にあることから、一定の効果が得られていると評価できる。

（総合所見）

平成２９年度も平成２８年度と同様に、計画に掲げた取組は概ね実施され、安全を最優先とするトップの考え及び現場作業に対するリスク感受性が、発電所員には浸透しつつあるが、一方で実際の現場作業を請負っている協力会社社員にはまだまだ浸透していないことから「計画に基づいた取組が行われ、改善傾向が見られる」と評価する。

また、劣化兆候については、事業者の評価において、評価の視点「現状への問いかけ・リスク評価や組織全体のリスク感知能力を通じて、更なる安全性、信頼性の向上および労働災害の未然防止」で評価を下げていること、「常に問いかける姿勢」「作業管理」といった要素において、気づき事項・指摘事項が抽出されたことから「特定の安全文化要素について劣化兆候が見られる」と評価する。

なお、当事務所からの「取組要請事項」を踏まえ、安全文化を醸成する活動に取り組むよう要請する。

以上